

産地動向報告 **ネギ**

J A 秋田なまはげでは、管内で生産拡大が進むネギにおいて、今年度も品質向上や販売促進などに取り組んできました。今年度は大雨や酷暑などが生育に影響したなかで、生産者の努力によって産地評価を落とすことなく、例年になく高単価となりました。ネギに関するこれまでの産地の動きをお伝えします。

これまでの生育・販売経過

令和5年度販売実績(10月20日現在)

	令和5年度	令和4年度	前年度比
出荷量(t)	120	143	84%
販売金額(千円)	53,004	45,275	117%
平均単価(円/kg)	441	316	140%

- 今年度の栽培面積は、秋田地区14ha、男鹿地区16.5haの計30.5haに上ります。
- 管内の圃場では、7月に大雨による冠水に見舞われた一方で、8月には高温および少雨が続き、生育の停滞が見られました。
- 当JA管内のほかに県内外の産地でも、高温などの気象経過によって細物傾向となり出荷量が前年度より減少。2L中心に引き合いが強く推移しました。
- その後は腐敗などの症状の発生も見られたため、選別や検品を強化。特に9月からは全国的に出荷量が少ない状態が続き、9～10月の平均単価は502円/kg(段ボール1箱当たり2,510円)と、例年に見ない高単価となりました。
- 10a当たりの単収を80万円以上確保している生産者もおり、個人・法人問わず実績を伸ばしています。

県外への計画出荷

県外2か所(横浜丸中青果、JA全農神奈川青果センター)への今年度の計画出荷は、8月中旬からスタートしました。県外出荷を行っている生産者は昨年度より6戸増加した20戸で、栽培面積は12.8ha。合計で日量平均400ケース(2t)を出荷しています。

品質向上への取り組み

夏ネギ現地研修会 7月4日(火)

秋冬ネギ現地研修会 9月11日(月)

圃場でネギを観察しながら、時期に合わせた現地研修会を行っています。7月の研修会ではさび病への対策などを中心に、夏期の栽培管理について学びました。9月の研修会では、異常な高温と少雨となった今夏のあとから収穫期にかけての病害虫防除や、品種特性などを取り上げました。



生産資材・農産物の盗難などに注意!

肥料・農薬や収穫した農産物などの盗難・悪用・流失を防ぐため、施錠できる屋内で適切に保管しましょう